

Title	下請労務の施工性に対する計量的アプローチ - 型枠歩掛と予測モデルの構築 -
Sub Title	
Author	奥村正巳 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0191

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

奥村正己

主査 関谷 章

(清水建設株式会社)

副査 小野 桂之介

所属ゼミナール

青井倫一研

青井倫一

下請労務の施工性に対する計量的アプローチ —型枠歩掛り予測モデルの構築—

建設国内市場が成熟段階に入り、競争が一層激化するなかで、よりよい戦略の策定が重要となる。しかし清水建設(株)では、戦略の重要な情報であるミクロ的分析が、ほとんど行われていないのが現状である。それは大別して ①情報の収集力 ②意思決定に必要な情報加工力の2点に問題があるからと思われる。一方下請労務は ①品質保証の相当部分を担っている ②工期遵守等の信用 ③労務コストは総コストの約半分を占めるという点で、競争上の重要な成功要因であるにもかかわらず相対的に重要性が低く評価され、全社の包括的な労務政策が策定されていない。

以上により、下請労務に対象領域を絞り意思決定に有用な情報加工の方法として計量的アプローチを試みた。具体的には主要労務の1つである型枠労務について、別個の分析から2つの計量的分析を行った。

- 1) 下請労務は生産力としてみた人的資源である本分析ではその対象を「専属度の高い重要下請業者の100%清水建設(株)の仕事をしている直・準直僱工と定義する。作業員の施工能力は平均と分散をもつ確率分布に従うと考える。そしてその期待値(本分析では標準的的施工能力と呼んでいる)を人的資源量とみなし、重回帰分析による予測モデルの構築を試みた。
- 2) 下請労務関連部門の中心的存在である購買部では、“取極”業務(契約)を通じて、下請労務業者のコントロールを行っている。その取極の判断基準となる情報は、現状ではカンと経験によっている。そのため客観性・説得性に欠け、また担当者間のノウハウの伝達が困難な点など問題を抱えている。この取極は建築物の特性(例えば階数・種類など)を判断基準とし、1日1人当りの平均出来高($m^2/人 \cdot 日$:これを歩掛りという)を予測して、その1単位当りの単価を決定するものである。そこで、この歩掛りについて、重回帰分析による予測モデルの構築を試みた。

1)では作業員の技能水準・モチベーション・体力といった属性に焦点をあて、説明要因としている。本分析ではこれを属人的要因と呼ぶ。また2)では建設物の特性を説明要因としているが、これを属物的要因と呼ぶ。結論部分では、両分析の解析と評価を行ったうえで、今後とも引き続き分析を行っていくにあたり、その方向を指示している。